

楷

第五十号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI
No.50
2010
MARCH



<写真>
水かがみ草
水田ニ生ス葉ノ本ヨリ根ヲ
ヲロシ蔓ル酢漿草ニ似テ小ク
大ナリ

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」より（岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵）

— 目 次 —

- 「楷の木」 ルーツ談義（岡山大学名誉教授 畔柳鎮）…………… p. 2
- 鹿田分館 3階部分への往来について（鹿田分館図書係長 山田智美）…………… p. 4
- 図書館主催 文献入手講座（参考調査係 久磨由美子）…………… p. 5
- 情報リテラシー教育と図書館（資源生物科学研究所分館図書係 遠矢厚志）…………… p. 6
- 東京国立博物館国際シンポジウムポスターセッション報告
（参考調査係 久磨由美子）…………… p. 7
- ご存知ですか（時計塔）（学術情報サービス課）…………… p. 8
- マスカット ……………… p. 9
- 資源生物科学研究所分館企画展示のお知らせ、IC 学生証への切り替えについて、ほか
- 会議・研修・編集委員会から ……………… p. 14

「楷の木」のルーツ談義

畔 柳 鎮

「楷の木」は、岡大図書館の玄関東側に植えられている木の名であり、この館報の名称にもされている、別名孔子木、または学問の木とも呼ばれ、岡山県では閑谷校の孔子廟前の2本が有名である。

中央図書館が完工した際、私達が種子から育てた苗木2本が植えられ、その中の1本が現存しているものである。西側の1本は枯れて無い。

この原稿を依頼された手紙の中から、2種の印刷物のコピーと1枚の写真が出てきた。それは、熊本大学医学部教授藤本十四秋先生が「楷樹」について紹介されている随筆と同窓会報で、熊本大学の山崎記念館（旧図書館）前にも大木があり、全国の「楷」を調査され、熊本のものが最も大木と書かれており、「樹令60年にもなるこの大木は、幹のまわり凡そ2メートル、高さ20メートルを超えている。」「中国曲阜の孔子墓前、伝子貢の手植のものより得られたる種子を以て、我が農林省林業試験場において播育せられしものの一つ...」と刻まれた花崗岩づくりの石柱が建てられているという。同封の写真は、まさにその現況で、大きな枝を縦横に展開し、見事な樹型に育ち、医学部卒業生の送別の会を「楷樹会」とされているとのこと。また、別のコピーには、湯島の聖廟、閑谷校、佐賀県の多久聖廟のもの探訪記を書いておられる。

同封のメモや註書のいくつかから、岡大出身の藤本先生が、岡山県の閑谷校で見られたと同じ「楷の木」が、熊本大学へ赴任されて、その構内にあり、卒業生の送別会名にもなっているのに興味を持たれ、いろいろ調査された事柄を記事にされているようで、今回の写真と印刷物のコピーも、岡大の医学部解剖学の村上宅郎教授から、館報「楷」のNo.3を贈られて、参考のために岡大の図書館にお送りくださったものとわかった。

したがって、今回依頼を受けたこの原稿も、本来私信として藤本先生へ岡大内や岡山県下の「楷の木」について、私の知る事実を書き送れば良いと思ったが、この機会にこれらの「楷の木」のルーツと樹令などについて述べたいと思う。

岡山大学の図書館前の「楷の木」については、この館報のNo.1に館報名「楷の木」の由来について、「楷の木はうるし科で、学名を『トネリバハゼノキ』といい、枝が横に水平に張るために、楷書の楷と名付けられたという。一中略一玄関東側に葉を繁らせている木は、農学部の畔柳教授から贈られたもので植樹以後三十数年、図書館と共に育ち、毎年晩秋には美しい紅葉を楽しませてくれる。」とあり、また岡大内での「楷の木」育苗の経過については、「岡大広報」No.57（昭和60年）に、「岡大の樹木追想」として、詳しく述べているので、ここには再録しないが、『岡山大学20年史』によると、中央図書館の完工は、昭和40年3月とあるので（同書540頁）、この年に私共の苗圃からの2本が植えられ、翌年の春、その中の西側の1本が枯れて、代用にムクロジが植えられたこととなる。苗令は3年生であったと記憶しているので昭和38年4月に発芽した苗である。そこで、昭和62年現在では、この玄関東側の「楷の木」の樹令は計算すると正確には25年生である。館報No.1の「植樹以後三十数年」とあるのは、図書館の設置の年から数えての話であって、実は昭和40年のあの時計台を持った中央図書館の完工を記念して植えられたものであることをここに明確にしておきたい。ちなみに昭和62年8月現在の大きさは、目通り周囲（単位はすべてセンチメートル）で

100、また根元周囲 128.5、健康で枝張りもよいが、熊本大学の「幹のまわり凡そ2メートル」の半分しかない。

ついでながら、最近計った岡山県下での「楳の木」の大きさは、目通り周のみで比較すると、閑谷校の孔子廟前、右 165、左 150、後樂園新殿横 115、三徳園右 50、左 64.5、岡大農学部右 51.5、左 50.5、岡山県庁北側 60、南側二又で共に 27、岡山武道館前右 107、左 119 で、とても熊本大学の2メートルには及ばない。

上原敬二著の『樹木大図説』（有朋書房、昭和34年）によると、白沢博士が初めて日本に入れたのは、大正4年（1915）で、湯島の聖堂を初め、日本の孔子廟といわれるところに植えられ、外に博士の下目黒の旧邸、林業試験場にもあるとのことで、これからすると、その年に発芽した苗とすれば、それらは1987年現在では、何れも樹令は72年となる。熊本大学のものも「昭和五年五月、予科教授岡井慎悟氏贈」と前述の石柱に刻んであるとのことであるから、同じ苗木だとすると、昭和5年は1930年であるから、植えられた当時の樹令は15年生のものであったと考えられ、「樹令60年」は今年では樹令72年が正しいようである。

それでは、熊本大学のものと岡山の閑谷校のものでは、樹令が同じであっても、大きさが違いすぎるのではないかと疑問を持たれる人も多いと思うが、熊本大学の方は長年管理が良く、根元も盛土で保護されているようであるから、これはまず普通の成長かと考えられる。

これに対して岡山の閑谷校の場合は、階段横の斜面の土手にあり、昭和30年頃は根元は露出し、特に向かって右側のものは生育が悪く、今にも枯れそうで、その保存対策を県から相談を受けた記憶がある。また、当時の生徒が木登りしたり、根元も踏み放題であったので、土手に盛土し、傾斜も緩く、また一部根元も掘り起こして、肥料を施すように指示し、現在では柵を作り根元への立入りが禁止され、斜面も土砂の流出を防ぐなどの工法で、立派な樹型に回復した。

昭和45年の調査（岡山県の巨樹・老樹・名木）では、右 110、左 100 で前述のような現在の大きさ右 165、左 150 と比べると、当時の樹令 57 年生の時で、やっと現在の岡山大学の図書館前（25年生）の太さと同じであったわけで、いかに閑谷のものが衰弱していたかがわかったと思う。

「楳の木」の育成で、私にいろいろ要望された人々の中で思い出すのは、昭和27年頃の山陽新聞の宇野善三氏、昭和30年頃では、谷口久吉氏、伊原木伍郎氏等何れも岡山県の木として、何とか閑谷の2本から、増殖出来ないかとの相談であった。三木知事もことのほか熱心であったが、知事の話の中に、岡山県出身の矢野一郎氏（当時第一生命保険会社の会長で、岡山県林業試験場及び現三徳園の用地の寄贈者）の要望が強かった事を聞かされた。何れも故人であるが懐かしい人々である。昭和38年に我々が育成した苗木も、確か矢野氏へも贈られたと思うが、現在三徳園のものがそれであるかどうかは定かではない。農学部にも昭和40年3月新館完成を祝って、玄関前に2本植えられ、それが5年程前から実をならせ、苗がとれるようになった。昨年には全国の造園学会が岡大で開かれた時、小形研三氏をはじめ、知人に種子を配布した。今年も多くの実をつけているが図書館前のも雌木で、今年初めて実をつけている。岡山県では、三徳園左側のもの、後樂園新殿横のものにも多くの実が見られる。私共の育てた木の実が芽生え、県下ではもちろん全国に植えられていることを思うと楽しいことである。

（くろやなぎ・しげる（故人） 岡山大学名誉教授）

『楳』No.5（1987年12月発行）に、畔柳鎮先生よりご寄稿いただきました記事を再掲させていただきました。再掲のご許可をいただきました畔柳先生の御遺族には、厚く御礼申し上げます。

鹿田分館 3 階部分への往来について

山 田 智 美

平成 22 年 4 月より鹿田分館 3 階部分への出入口を変更します。これまで 3 階部分には外側階段からしか上がれないようになっていたため、以前より学生からは鹿田分館の内側階段で上がれるようにしてほしい、との要望が出ていました。このため、3 階を管理している学務課との打ち合わせの結果、4 月より鹿田分館内側階段から行き来することで合意し、準備を進めてきました。

○ 平成 22 年 3 月までの状況

鹿田分館の新館は 3 階建てですが、1-2 階部分が附属図書館の管理、3 階部分が学務課の管理と分かれています。3 階部分には情報実習室などがあり、特に学部学生が多く利用しています。

これまでは管理の違いのため、3 階部分に行くには外側階段から上がらなければなりません。外側階段は夜暗く、屋根もないため安全上問題がありました。また、3 階の情報実習室で文献検索した資料を図書館で探すのに一旦外側階段から出て改めて図書館玄関から入らなければならないため不便、との意見も出ていました。

○ 対応

このため、10 月に学務課と打ち合わせを行い、学部学生も 3 階を今と変わらない条件（24 時間利用可能）で図書館内側階段から出入りすることで合意し、4 月実施に向けて準備を進めることになりました。

図書館では、その後、防犯カメラの増設や放送設備の完備、階段パーティションの撤去、階段の整備を行いました。

○ 変更点

- ・ 入口は図書館玄関のみにし、外側階段は非常時の避難出口にする。
- ・ 図書館時間外利用はこれまで申請制で、10 分程度の講習受講を義務付けていたが、4 月以降はどちらも不要。学生（大学院生含む）は全員登録し、利用できるようにする。（教職員は今後も申請が必要。）
- ・ 学部学生の図書館時間外特別利用の利用時間を 24 時間に延長する。
- ・ 閉館時にはこれまでいったん利用者全員に館外へ出てもらい、閉館後に再度入館してもらっていたが、閉館時には放送のみでそのまま利用できるようにする。

○ 注意点

- ・ 3 階は学内者のみ利用可能。
- ・ 食事は 3 階学生控室部分を除き禁止。（パソコン周辺は飲食禁止。他はペットボトル、水筒などフタができる飲み物のみ可）
- ・ 図書館閉館後は入退館に学生証または時間外特別利用カードが必要。

（やまだ・ともみ 鹿田分館図書係長）

図書館主催 文献入手講座

久 磨 由美子

附属図書館中央図書館では、基本的な文献入手の方法や自分が必要とする文献を探すためのツールを紹介する「文献入手講座（基礎編）」を実施しました。昨年11月30日と12月1日に理系編、文系編の各講座を2コマずつ合計4回、各回1時間程度の講座となりました。

事前に図書館内および学部掲示板にてポスターで広報をしました。講座当日、予約申し込み数程度の資料を準備していくと、予想以上に飛び込みの受講者の方が多く、あわてて資料の準備数を増やしました。

講座は基礎編ということもあり、基本的な大学と高校のレポート内容の違い、論拠となる文献調査の必要性などをお伝えすることから始まりました。続いて、講座中で使われる言葉の確認、資料の種類や特性の違い、文献情報の読み解き方と書き方、基本的な日本語論文データベースであるCiNiiの紹介と簡単な使い方（理系編については、JDream IIの紹介を含む）、岡山大学で所蔵している資料の探し方、岡山大学で所蔵していない資料の入手方法、最後に著作権の意味となぜ著作権を守らなければならないのか、といった内容を順次こなしていきました。1時間で説明するにはたくさんのお情報を詰め込みすぎた感もあり、かなり駆け足な説明となってしまいました。

本来であれば演習形式で実際みなさんに検索してもらい、キーワードの設定によりどのように検索結果が異なってくるのか、他のデータベースを使って検索をおこなうとどのような結果が出てくるのか等を知っていただくのが一番であることは承知しています。しかし、長時間の講習会となると時間的にもむずかしいようで、なかなか参加者を集めることができません。

ただ、今回の講習会には予想以上の参加をいただきましたので、こういった講習会の必要性を再度認識いたしました。平成21年度は秋の講習会となってしまいましたが、平成22年度は春に再度内容をブラッシュアップして実施予定です。

新1年生のみなさんには新たな環境での学習の一助として、ぜひこのような講座へ参加をしていただければと思います。また、2年生～4年生のみなさんには、今まで使ったことのない、またはあまり使ったことのない図書館機能や、情報や資料収集のための参考としてご参加いただければと思います。もちろん、院生のみなさんもお参加いただけます。基本の再確認や、岡山大学でできることの確認などにご活用いただければと思います。また、例年秋季にはデータベースを提供しているベンダーから講師を招聘し、各種データベースの専門的な講習会も実施しています。特に卒業論文に着手する3年生以上や、院生のみなさんはぜひ積極的にご参加ください。

こういった講習会があればいいなといった提案や、講習会の実施日程では参加できないけれど、講習会の内容を知りたいなど、ご意見ご要望があればぜひお聞かせください。

（くま・ゆみこ 参考調査係員）

情報リテラシー教育と図書館

遠 矢 厚 志

1月21日から22日まで「情報リテラシー教育担当者研修会」(会場:広島大学)に参加しました。この研修は、中国四国地区の情報リテラシー教育担当の大学図書館員を対象に、その専門的な知識と技術を習得し、担当者間での情報交換・情報共有を図ることを目的に行われているものです。この研修でとりあげられた話題の中から、情報リテラシー教育とはどういったものなのかご紹介したいと思います。

●情報リテラシー教育とは

情報リテラシーとは「情報を主体的に活用する能力」で、情報リテラシー教育は「利用者に対して情報リテラシーの習得・向上を支援する活動」と定義されます。コンピュータや図書館を使いこなす能力だけではなく、その上で、入手した情報を使いこなす能力を向上させることが目的となります。岡山大学でも、学術情報リテラシー向上のため、『学術情報の基礎知識』を作成していて、図書館ホームページから電子ブック版が入手できます。

●情報リテラシー教育における図書館

一般に図書館で行っている情報リテラシー教育としては、図書館内のオリエンテーションや講習会などの利用教育と、授業の枠の中で実施しているものなどがあります。大学全体としての情報リテラシー教育と捉えるときに、図書館の中だけでとどまるのではなく、授業と連動した取り組みが課題となっています。今後の図書館の情報リテラシー教育に必要なこととして三つ挙げられています。一つが、教育学の要素を取り入れることで、講習会の実施に当たって「らせん型指導(同じ内容を少しずつ高度にしながら繰り返し指導する)」を取り入れるなどの事例があります。次に、レポートの作成の支援を視野に入れることで、学生の学問領域における学習の進め方を把握しておくことが必要とされます。最後に、情報リテラシーを活用できる環境づくりで、テキストなどのツールの開発や、ラーニング・コモンズの設置による学習支援の場所の提供などがあります。今回の研修の事例報告として e-learning を導入した情報リテラシーの授業(広島大学)がありました。

●図書館員の役割

情報リテラシー教育は授業の一環として行うものだけではありませんが、図書館の中で行うにしても、常に授業と連携した視点が必要となります。図書館員と教員が共同で構築していくことが求められています。また、利用者を知るといことは図書館員の専門性の要件ですが、携帯電話やインターネットの普及によって変化してきた学生の利用動向に的確に対応する必要があります。今回の研修でさまざまな大学図書館の意欲的な取り組みに触れ、図書館員の熱意を感じました。大学における教育・学習支援でいかに力を発揮できるかに、図書館員としての真価が問われている現状を鑑みて、改めて一層の努力の必要を感じました。今回の研修を機に、担当者間でのメーリングリストが発足しましたので、自館にとどまらず他館との情報を共有して今後を活用していきたいと思えます。

(とおや・あつし 資源生物科学研究所分館図書係員)

東京国立博物館国際シンポジウム

ポスターセッション報告

久 磨 由美子

2010年1月24日東京国立博物館にて、教育普及国際シンポジウム「伝統文化を伝えるために博物館ができること」が開催されました。

附属図書館では所蔵している資料を教育利用するための活動をおこなっております。なかでも、平成18年度よりおこなっている「池田家文庫 こども向け岡山後楽園発見ワークショップ」について3年間の開催実績もあり、また平成21年度は岡山大学ユネスコチェア地域セクション事業としての最終年度ということもありましたので、シンポジウムでのポスターセッションに参加することとなりました。

シンポジウム当日は午前の部と午後の部に分かれ、午前には東京国立博物館の事例報告が3件、午後の部は千葉県立房総のむら、イギリスの Victoria and Albert Museum、オーストラリアの National Museum of Australia、シンガポールの Asian Civilisations Museum の4件の事例報告がありました。いずれも、様々な考え方や方法を駆使して「伝統文化」を伝えるために工夫を凝らした事例でした。

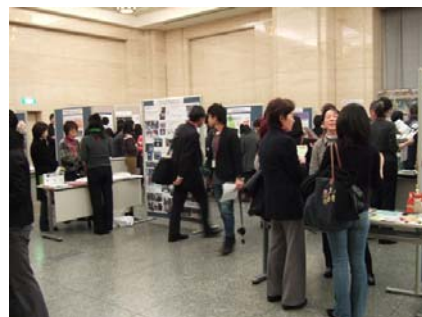
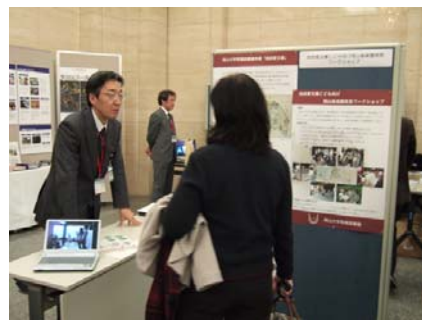
事例報告に続き、パネルディスカッションがおこなわれた。事例報告をおこなった5名と司会者1名により、さまざまな問題や話題について議論がおこなわれ、来館者の期待をどのように満たすかと



いった取り組みや、アンケートなどを通して潜在的な期待を明確にする方法、また政府や教育機関との連携による伝統教育や取り組みなどについても語られました。私たち図書館とはまた違った機能を持つ博物館・美術館での取り組みについて知る機会となり、よい勉強となりました。

パネルディスカッションの後、ポスターセッションとなりました。場所はシンポジウムのおこなわれた平成館1階のラウンジです。当機関を含め、15のブースにて報告および活発な意見交換や交流がなされました。

岡山大学附属図書館のブースもたくさんの人に見ていただき、用意した資料が足りなくなるほどの関心をいただきました。報告に対し、活発なご意見や質問をいただき、大変刺激を受けたと共に、普段大学と接する機会があまりない方々へ情報を発信することもできたと思います。



(写真) ポスターセッションの様子

(くま・ゆみこ 参考調査係員)

ご存じですか (時計塔)

学術情報サービス課

岡山大学の津島地区内には東西と南北にT字の形で市道が通っています。この南北道路をまっすぐ北への突き当たりの建物が附属図書館で、その中心には時計塔が存在します。新緑や紅葉の頃いちよう並木の向こうに見える時計塔は非常に美しく、岡山大学の顔とも言えます。

この時計塔は、昭和40年3月に図書館増築とともに設置され、高さ23メートルあり、東南西3面に時計が配置されていて、大学内から時計が見えるように配慮されています。

昭和39年当時の附属図書館は非常に狭隘が進んでおり、拡張計画が起こりました。そのおりにシンボルとしての時計塔建築を予算要求時に打診をしたところ、国内の他大学の状況等から許可されなかったため、岡山大学所蔵の貴重資料を火災等の損失から防ぐために防火水槽設置へと計画変更を行い、許可されたというエピソードがあったそうです。そこに時計が設置された経緯は不明な部分が多いのですが、平成9年3月に時計塔よりも高い新館が増設され、その5階に貴重資料書庫が設置されるとともに防火水槽という役割を終えましたが、建築以来40年間岡山大学の学生に時を知らせ続けてきました。

平成21年3月に耐震工事が実施され、大幅にリニューアルされました。外観は全体的に白基調となり、大学の公式ロゴマークも付けられました。時計も電気式からLEDの電波時計に変わり、夜は白く輝き、正確な時間を夜間でも見るできるようになりました。(この時計は3代目となります)

建築当時の内部は5層に分かれており、3層からは一本の螺旋階段のみで上れるようになっていました。その用途は時代時代によって変わってきましたが、多くは資料保存のための倉庫等に使われてきました。これも耐震工事等で若干変更され、時計塔全体の重量軽減のため4層の床を撤去したため全体で4層となりました。2層部分には自動販売機が設置され、利用者のために開放されています。3層以上は大きく変ることなく赤く塗られた螺旋階段で上れるようになっていますが、非常口や冷暖房が未設置のため利用者のためのスペースにはなっていません。(外からの美観上倉庫にもしていません。つまり現在はがらんどです)

オープンキャンパス時に時計塔内部見学ツアーを実施したこともあります。(冷房がないため見学の方は大変暑い思いをされたことと思います。)正面に時計がはまっているため、あまり見通しが良くありませんが、塔という構造上、下を覗くと大きな建物から覗くのと異なった景色が見えます。また、2層分吹き抜けになった螺旋階段もスリルがあります。今後も要望があれば、安全に配慮した時計塔ツアーも考えていければと思っています。

参考資料：岡大広報 No.96 (1998.7)

岡山大学二十年史

岡山大学史 昭和四四年～昭和五四年



時計塔から見た大学筋

上) 昭和40年代初頭 下) 現在

マスカット

資源生物科学研究所分館第2回企画展示について

資源生物科学研究所分館では、3月1日(月)～4月30日(金)に、企画展示「貴重書で見る江戸・明治の食」を開催しています。所蔵している貴重図書に広く触れていただくため、今年度からさまざまな展示を企画していますが、第2回目として、江戸・明治時代の日本の食文化に焦点を当てた展示を開催しています。内容は、江戸時代にベストセラーとなった「豆腐百珍」などの貴重図書の現物展示と合わせて、食材や名産の図版を写真パネルにして、その当時の食文化について解説を加えたものです。「豆腐百珍」については作り方のレシピを作成しましたので、是非この機会にご来場ください。



IC学生証への切り替えについて

2008年以前入学で2010年4月1日在籍学生へのIC学生証の交付が2月1日より開始されています。IC学生証交付に伴い図書館利用番号が変更となりました。旧学生証では入館ゲートの通過及び図書の貸出ができません。早めの交換をお願いします。なお、在学期間を延長された方は学生証の交付が4月以降になります。IC学生証交付前は仮学生証でのご利用となります。ご不便をおかけしますが、ご了承ください。

資源生物科学研究所分館の名称変更について

4月1日より、資源生物科学研究所が資源植物科学研究所と名称変更するに伴い、資源生物科学研究所分館も資源植物科学研究所分館に名称変更いたします。

鹿田分館の冷暖房運転時間について

利用者からの要望に沿って、鹿田分館の冷暖房運転時間を平成22年1月25日から変更しました。主な変更点は、利用者数の少ない早朝の冷暖房運転開始時間を遅らせ、平日夜間の暖房時間を延長しています。また、今まで運転していなかった、時間外特別利用で利用者の多い日曜日昼間に冷暖房が入るようになりました。

【暖房運転時間】

月曜日～金曜日	8:15～20:30
土曜日	8:45～18:00
日曜日	10:00～18:00

【冷房運転時間】

月曜日～金曜日	8:30～20:30
土曜日	9:00～18:00
日曜日	10:00～18:00

電子ジャーナル：平成22年度購読タイトルと整備方針について

電子ジャーナル等選定ワーキンググループでの協議の結果、下記3点が決定しました。

平成22年度購読タイトル（平成21年10月14日決定）

平成22年度における電子ジャーナルおよびデータベースの購読タイトルです。ワーキンググループで選定した大手4社(Elsevier, Wiley, Springer, Oxford UP)パッケージ、総合科学雑誌(Nature, Science, PNAS)、主要データベースと、各研究科でご選定いただいた各専門分野の雑誌から構成されています。

平成23～24年度購読タイトルの調整について（平成22年1月4日決定）

平成22年度購読タイトルの維持を原則として、平成23～24年度購読タイトルの調整手順等を定めたものです。

岡山大学における電子リソースの整備方針について（平成21年12月17日決定）

本学における電子ジャーナル、データベース、電子ブック等の整備方針を定めたものです。全学共通経費で整備するタイトルについては、今後もワーキンググループを中心にご選定いただくこととなりました。

上記3点とその他の関連資料は、附属図書館ホームページの「学内限定情報」に掲載してあります。本学関係者の方は、学内のパソコンから以下のURLへアクセスしてご確認いただけます。

<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/campusonly/>（※学外からはご覧いただけません。）

岡山共同リポジトリ事業による各大学研究成果の無料公開について

「岡山共同リポジトリ」は、附属図書館内に設置したサーバ上に県内研究機関の研究成果を蓄積し、インターネット上での無料公開を進める事業です。本事業により、県内各機関の研究成果をより多くの方に活用していただくことが可能となります。

平成21年4月には、環太平洋大学、中国学園、津山工業高等専門学校各リポジトリが正式公開となり、Google等を通じてこれら大学の紀要（大学が発行する学術雑誌）等を無料で入手していただけるようになりました。岡山地域における学術情報の発信・流通のひとつのモデルとなることを期待します。

各大学の研究成果は、Google等での検索のほか、以下のURLで利用できます。

- ・ 環太平洋大学研究成果リポジトリ <http://repository.ipu-japan.ac.jp/>
- ・ 津山工業高等専門学校学術成果リポジトリ <http://repository.tsuyama-ct.ac.jp/>
- ・ 中国学園リポジトリ <http://cur-ren.cjc.ac.jp/>

平成21年度ブックハンティング報告

昨年11月11日、岡山市内の書店でブックハンティングを実施しました。様々な学部から男女10名の学生・院生が参加しました。中には二度目の参加の学生もいました。多くの学生に読んでほしい学習用の図書や教養書、キャリア形成やマナー等を考える書籍を、学生自身が選ぶというのが趣旨です。2時間という制限された時間内で、各自の専門分野や興味のある分野の書棚で、渡されたハンディーターミナルを片手に、真剣に書籍を選択していたのが印象的でした。選択された書籍は、学術的なものから小説や絵本に至るまで幅広い分野ものでした。学生が選択した約160冊の書籍は、後日、図書館が書店より購入し、しばらくの間、新着図書コーナーの一角にまとめて置かれました。学生自身の目線で選んだ書籍は新鮮で興味をひき、大変多くの利用がありました。

データベース講習会報告（中央図書館）

データベース販売会社から派遣されたインストラクターによって、開催された講習会参加者数です。

開催日	データベース名	参加者数
6月16日	Web of Science	7
6月23日	Biological Abstracts + Medline	0
6月23日	Inspec	0
6月24日	Econlit	3
6月24日	PsycINFO	1
10月7日	ScienceDirect	0
11月5日	Springer	0
11月11日	SciFinder	5

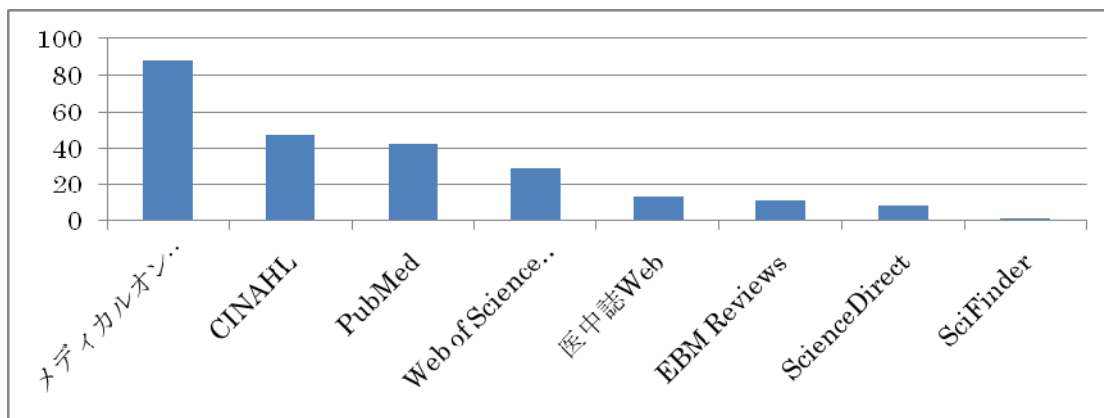
鹿田分館 平成21年度講習会報告

鹿田分館では平成21年度に18回講習会を行い、計307名の参加がありました。内容は生命科学分野のデータベース利用についての講習会が中心で、その他に医学科、歯学科の3年生を対象に研究室配属時期に合わせた文献検索基礎の講習会をそれぞれ2回行いました。各回の参加人数は次の通りです。平成22年度も引き続き各種講習会を企画しています。

講習会内容	日	対象	参加人数
メディカルオンライン	5/8 (金)	保健学科4年生	80
CINAHL	6/8 (月)	教職員、医員、学生	35
PubMed	6/12 (金)	教職員、医員、学生	32
Web of Science + EndNote Web	6/16 (火)	教職員、医員、学生	29
医中誌 Web	6/18 (木)	教職員、医員、学生	8
メディカルオンライン	6/22 (月)	教職員、医員、学生	8
EBM Reviews	6/23 (火)	教職員、医員、学生	11
CINAHL 2回目	7/27 (月)	教職員、医員、学生	10
ScienceDirect	10/7 (水)	教職員、医員、学生	8
PubMed 2回目	10/26 (月)	教職員、医員、学生	10
医中誌 Web 2回目	10/30 (金)	教職員、医員、学生	5
SciFinder	11/11 (木)	教職員、医員、学生	1
文献検索基礎	1/18 (月)	教職員、医員、学生	1
CINAHL 3回目	1/22 (金)	教職員、医員、学生	2
合計		14回	240

文献検索基礎	9/7 (月)	医学科3年生	29
文献検索基礎	9/15 (火)	医学科3年生	21
文献検索基礎	10/6 (火)	歯学科3年生	9
文献検索基礎	10/14 (水)	歯学科3年生	8
合計		4回	67

データベース別の参加人数（鹿田分館）



池田家文庫絵図展「岡山藩の教育」報告

平成21年9月29日（火）～10月18日（日）に岡山市デジタルミュージアムにて開催されました。江戸時代の岡山藩学校・閑谷学校に関する絵図・文書、岡山医学校時代の資料を展示しました。入館者数は1780名。10月3日（土）に開催された記念講演会（講師：辻本雅史氏<京都大学>）の入場者数は75名。オープニングトークの入場者数は50名。

今回、初めての試みとして中四国地区の島根大学・広島大学・香川大学・鳴門教育大学より参加を得て、各大学の貴重資料をパネルにて紹介しました。

平成21年度「池田家文庫 子ども向け岡山後楽園発見ワークショップ」（冬）報告

平成21年度第2回目（通算第7回目）の「池田家文庫 子ども向け岡山後楽園発見ワークショップ」を平成21年12月5日（土）に開催いたしました。インフルエンザの流行期で募集に対して申込が保護者を含めて6名と少人数だったため、少人数ならではのワークショップとすることとしました。内容としては、過去に実施したポイントラリーをベースにした他、学生による江戸時代の士農工商についてのクイズ形式の学習もおこないました。

今回はグループを分けず1つのグループみんなで話し合いをしながらポイントを巡り、学生と参加者の距離のより近い、少人数ならではの雰囲気のワークショップとなりました。ワークショップの最後にはみんなの前で発見したことを各自発表してもらい、修了証にポイントラリーで集めたカードと、記念写真を貼ってもらいおみやげとして持ち帰ってもらいました。

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

〈中央図書館〉※教員業績コーナー（本館1階）に配架

井上成信 [名誉教授]

Virussen in Orchideeën : Symptomen, Diagnose, Verspreiding en Beheersing
——Blue Bird, c2008 (627.57/I)

神立春樹 [大学院社会文化科学研究科、受贈時]

明治期農村織物業史調査研究の記録——教育文献刊行会, 2009 (586.721/K)

明治期輸出花菫業の展開過程——岡山大学法文学部日本経済史研究室, 1973 (L586.7/K)

児島産業地域の形成——岡山大学経済学部日本経済史研究室, 1982 (L509.2/K)

倉地克直 [大学院社会文化科学研究科]

池田家三代の遺産：姫路城の"創業者"——神戸新聞総合出版センター, 2009 (288.3/I)

絵図で歩く岡山城下町——吉備人出版, 2009 (291.75/E)

下定雅弘 [大学院社会文化科学研究科]

柳宗元：逆境を生きぬいた美しき魂——勉誠出版, 2009 (920.24/R)

中東靖恵 [大学院社会文化科学研究科]

ブラジル日系・沖縄系移民社会における言語接触——ひつじ書房, 2009 (810.1/B)

行安茂 [名誉教授]

道德教育の理論と実践：新学習指導要領の内容研究——教育開発研究所, 2009 (375.35/Y)

吉岡伸一 [大学院社会文化科学研究科]

変わりゆく人と民法——有信堂高文社, 2009 (324/K)

(敬称略五十音順)

会議

◆学外

- 21.10.5 平成 21 年度国立大学図書館協会中国四国地区協会実務者会議（於 徳島大学）
・大学図書館の広報
－企画・実践とその効果を考える－
- 10.22~23 第 50 回中国四国地区大学図書館研究集会（於 高知会館）
・大学図書館は今
～さらなる利用者支援を考える～
- 11.19~20 第 45 回日本医学図書館協会中国・四国地区会総会（於 愛媛大学図書館）
- 12.4 中国四国地区国立大学学術情報・図書館・情報環境部長会議（於 岡山大学附属図書館）
- 12.10 平成 21 年度国立大学図書館協会中国四国地区協会事業委員会総会（於 岡山大学附属図書館）

◆学内

- 21.10.28 平成 21 年度第 3 回附属図書館運営委員会
- 22.1.15 平成 21 年度第 2 回附属図書館運営委員会
鹿田分館分科会
- 22.2.24 平成 21 年度第 3 回附属図書館運営委員会

研修

- ・平成 21 年度 ILL システム地域講習会
参加者 中 京子 (9.11)
- ・第 3 回中国・四国・九州・沖縄地区
大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー
参加者 中 京子、難波 麻紀、藤井 香子
(9.17~18)
- ・平成 21 年度大学図書館職員研修
参加者 中山 千佳子、難波 麻紀 (9.29~10.2)
- ・平成 21 年度漢籍担当職員講習会
参加者 岡本 和子 (11.16~20)
- ・平成 21 年度国大図協助成事業情報リテラシー教育担当者研修会
参加者 遠矢 厚志 (22.1.22)
- ・平成 21 年度製本講習会
参加者 久磨 由美子、藤井 香子、中 京子、小松原 千明 (1.22)
- ・平成 21 年度岡山大学個人情報保護研修
参加者 山田 智美 (2.26)

編集委員会から

今年は「国民読書年 2010」です。今の大学図書館は新しい情報を無駄なく得ることに力が注がれています。読書は最初から最後まで読んで、無駄な部分も含めたものだと思います。大学図書館も図書館の一つなので少しは読書を助ける場所になっていると思います。

岡山大学附属図書館報「楷」 No.50 平成 22 年 3 月 1 日

発行人 小花洋一 編集 広報誌編集委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目 1-1 電話 086-252-1111

ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>